

「日々の仕事」と「簡単な自分史」：カガヤヌン語の談話資料*

山本恭裕, 竹村美宥

東京外国語大学

キーワード：カガヤヌン語, オーストロネシア語族, フィリピン, 談話資料

1 はじめに

カガヤヌン語 (Kagayanen [kagajanən]; Ethnologue Code: cgc) はオーストロネシア語族マラヨ・ポリネシア語派, マノボ諸語の言語の一つである (Harmon 1977). マノボ諸語の多くはフィリピン南部のミンダナオ島に分布するが, カガヤヌン語はパラワン州の Cagayancillo (図1の右側中央の島) で主要な言語として話されている. また話者の移住により, パラワン島東沿岸部, 南のバラバック島, 北のコロン島とブスアンガ島にもカガヤヌン語話者コミュニティが点在する. 話者数は2007年時点で30,000人と推定されている (Eberhard et al. 2022).

本稿の目的は, 言語資料としてカガヤヌン語による2編の談話をグロスと和訳とともに提示することである. 本言語資料の音声データは, 2022年8月28日にフィリピン共和国, パラワン島のロハス市において録音された. 録音はリニア PCM レコーダー (ZOOM H5) とコンデンサーマイク (Audio-Technica AT831b) を使用し, 44.1kHz のサンプリングレートで行なわれた.

フィリピンで話される他のオーストロネシア語族の言語と比べて, カガヤヌン語は比較的豊かな指示詞の体系¹を持つほか, 定性と空間的直示性を表現する指示詞由来の前接語を持つことがわかっている (Pebley 1999a). これらの定性や空間的直示性が関わる言語形式の意味論・語用論的特徴を明らかにするためには豊富な談話資料が不可欠であるが, これまでに出版された談話資料は MacGregor and Pebley (1999) のみで, 非常に限

* 本研究は JSPS 科研費 20K13042, 19H01264, 19KK0012 の助成を受けている. 本談話資料の録音において, カガヤヌン語話者の Jehu Pedigan Cayaon 氏にたくさんのカガヤヌン語話者を紹介して頂いた. 心より感謝を申し上げる. また, 本稿の作成にあたって数多くの有益なコメントをくださった落合いずみ氏に深く感謝を申し上げる.

¹ Pebley (1999a: 51–55) の記述では, 指示詞には次の形式的区別が存在する. 直示的中心に対する距離に関する4つの系列 (D1, D2, D3, D4) の区別, 統語的機能に関する6つの区別, さらにこれら6つの統語的機能のうち4つに特定 (specific) と総称 (generic) の区別. あわせて40の言語表現から指示詞の体系が構成されるが, 特定・総称の対立などその意味論的・語用論的特徴が明らかでない点が多く残されている.

定的である。本研究はそうした言語資料の不足を補うことに貢献する。

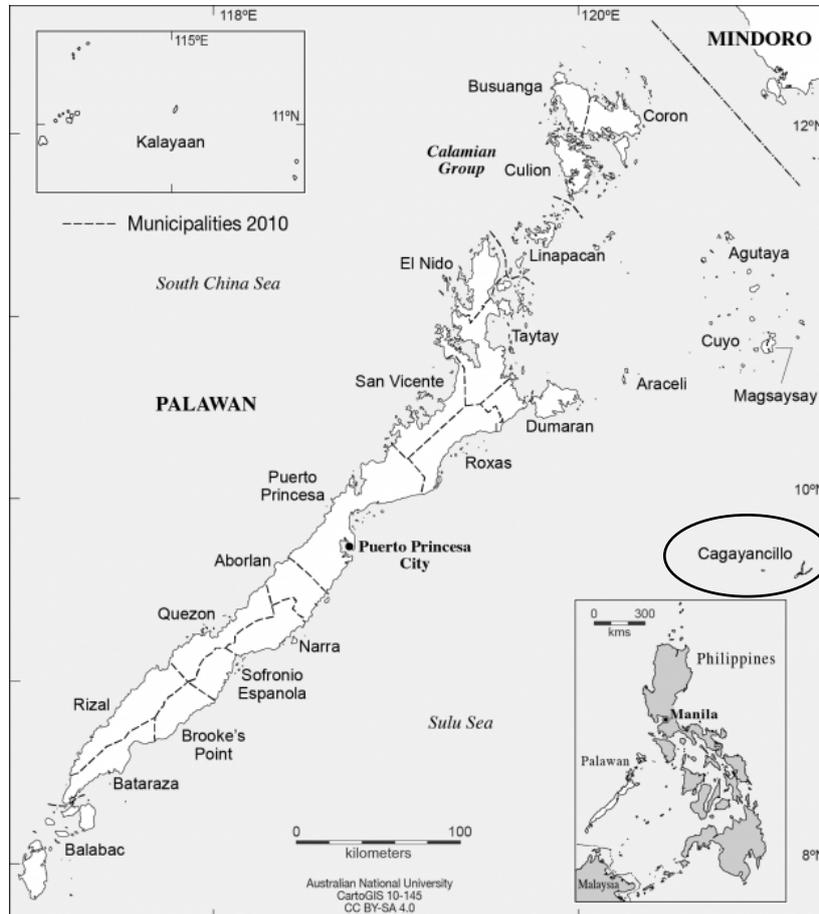


図1 パラワン州の地図 (ANU CartoGIS の地図データを編集)

2 カガヤヌン語の概略

カガヤヌン語の子音音素は /p b t d k g ʔ s (h) m n ŋ l r w ɔ̯ j/, 母音音素は /i (e) ə u (o) a/ である (Mielke et al. 2010: 206). /e/, /o/ は借用語にのみ見られる。無声声門摩擦音 [h] は音韻的には役割が少ない。主に借用語や固有名に現れ、固有語ではゼロとの自由異音として現れる (e.g., [waig~wahig] ‘water’).² カガヤヌン語は通言語的に珍しい歯間接近音 (interdental approximant) /ɔ̯/ を持つ。この音は舌を突き出し、舌端を上前歯に接近させて調音される (この時、舌尖は下前歯か下唇に触れている)。歯間接近音はカガヤヌン語の固有語でそれなりの頻度で、品詞を問わず観察される。歯間接近音は知覚的に側面音的性質を持つと描写されることもあり、例えば Harmon (1977: 17) はこの音を ‘L-

² 話者内での変異というより、話者間や話者コミュニティ間での変異という印象が強い。話者内ではある程度 [h] かゼロのどちらか一方で一貫して実現する傾向がある。

colored glide' と呼んでいる。この特徴のためか、カガヤヌン語の先行研究においては歯間接近音と /l/ が区別されていないことも少なくない。例えば Pebley (1999a, 1999b) や Huggins et al. (1989), MacGregor and Pebley (1999) ではどちらの音も 'l' を用いて表記されている。

音韻語が基底において語頭子音を持たない時、その位置に声門閉鎖音が挿入される (e.g., /ubra/ > [ʔubra] 'work'). 語中、語末の声門閉鎖音は他の音との対立が見られるため、音素として機能しているとみなせる。

表層での音節構造は語頭で C₁(C₂)V(V)(C), それ以外で (C₁)(C₂)V(V)(C) である。音節核として V が2つ連続して現れることが可能だが、同じ母音が連続することは許されない。C₂ の位置には接近音 /w ɔ̃ j/ のみが生起可能である。また、声門閉鎖音が C₁ にある時、いかなる C₂ も生起しない。

形態論的には、他のフィリピンタイプの言語と同様に形態素境界がわかりやすい分析的な傾向があるが、接頭辞-語幹間で母音脱落や子音置換が頻繁に見られる。また、タガログ語やイロカノ語などのフィリピン諸言語では接中辞の存在や重複の多機能性が見られるが、これまでのところカガヤヌン語で接中辞は観察されておらず、重複もあまり生起しない。

動詞述語節では基本的に述語が先行し VS/VAP の順序を取るが、SAP のどの構成素も述語の前に現れうる (Pebley and Brainard 1999)。人称代名詞では格による対立が発達しており、能格/属格³、絶対格、斜格などが形式的に区別される (Pebley 1999a)。

表1 人称代名詞

	ABS	ERG/GEN	POSS	FRONT	OBL
1SG	<i>a/arən</i>	<i>ku</i>	<i>akə/ kəndə</i>	<i>jakən</i>	<i>kijakən</i>
2SG	<i>ka</i>	<i>nu</i>	<i>imu</i>	<i>kaun</i>	<i>kikaun</i>
3SG	<i>kanən</i>	<i>din</i>	<i>ija</i>	<i>kanən</i>	<i>kikan</i>
1PL.EX	<i>kaj</i>	<i>naj</i>	<i>amə/məndə</i>	<i>kami</i>	<i>kikami</i>
1PL.INC	<i>ki</i>	<i>ta</i>	<i>atə/təndə</i>	<i>kitən</i>	<i>kikitən</i>
2PL	<i>kaw</i>	<i>njo</i>	<i>injo</i>	<i>kjo</i>	<i>kikjo</i>
3PL	<i>danən</i>	<i>danən</i>	<i>iran</i>	<i>danən</i>	<i>kidanən</i>

普通名詞の格は形態的にではなく統語的に標示され、絶対格(ゼロ)と能格・属格・斜格 (*ta=*) の対立が見られる。人名の自動詞文主語および他動詞文行為者と被動作者は明

³ 能格と属格は形式上区別されない。

示的な標示はされず、斜格のみ明示的に標示される。

表2 普通名詞と人名の格標識

	ABS	ERG/GEN	OBL
普通名詞	∅	ta=	ta=
人名	∅	∅	ki=

カガヤヌン語は後接語と前節語を豊富に持つ。後接語には格を標示するものや接続詞が含まれる。前接語には節レベルの前接語と句レベルの前接語の二種類が存在する。節レベルの接語として絶対格と能格の人称代名詞や *=ən* ‘already’ の様な副詞的要素があり、これらは基本的に節の最初の音韻語の後に生起する。句レベルの前接語には、句の最初の音韻語の後に生起するものと、句の最後に生起するものがある。句の最初の音韻語の後に生起する接語の例としては、属格人称代名詞や、指示対象の定性や話者からの距離を表現する指示的前接語があげられる。

3 談話資料

本セクションでは、「日々の仕事」 (§3.1) と「簡単な自分史」 (§3.2) の 2 つの談話資料を提示する。以下では、上から順に、音韻プロセスを経た表層の音韻表記⁴、形態素境界を示した基底の音韻表記、語釈、和訳という構成で各文を提示する。

談話にはスペイン語、英語、タガログ語からの借用語が現れる。それらの借用語はカガヤヌン語の音韻論にある程度合う様に修正されて発音されており、以下での表記もその発音を反映したものになっている。§3.2 ではタガログ語にコードスイッチしている箇所が一つ見られるが、ここでも実際の発音を反映した表記を行い、カガヤヌン語に存在しない母音の長短の区別も示している。

3.1 日々の仕事

この談話は、ロハス市在住の 62 歳の男性が日々の仕事について語ってくれたものである。談話では男性の職場の病院での仕事に加えて、自宅の修復仕事についても話がされている。ロハス市は 2021 年 12 月にフィリピンを襲った台風オデッテによる大きな被害を受けており、2022 年の 8 月でも、教会や家々にその傷跡がまだ多く残されていた。男性の家も台風によって屋根が飛ばされており、修復の大変さを笑いながら話してくれ

⁴ 母音の脱落など、音韻プロセスでなく言語固有の音声現象である可能性もある。この点を明らかにするには詳細な検証が必要となるため、本稿ではその可能性を考慮せず、音韻プロセスとして表層の音韻表記に反映させている。

た。

(1) *gaubra ʔuspital.*

ga-ubra ʔuspital
 RL.AV-work hospital
 ‘(私は) 病院で働いている’

(2) *daw lunes ʔuða ʔa ʔubra ... daw martes mjerkules bjernes*

daw=lunes ʔuða=a ubra ... daw=martes mjerkules bjernes
 when=Monday NEG.EXIS=1SG.ABS work PAUSE when=Tuesday Wednesday Friday
ʔasta sabadu ʔubra ku ʔan ʔuspital.
 asta=sabadu ubra=ku an=ʔuspital
 until=Saturday work=1SG.GEN LOC=hospital
 ‘月曜日は仕事がなく、火曜日、水曜日、金曜日、そして土曜日まで病院で仕事。’

(3) *ʔubra ku dja tama ... mintinans ... kisjaŋ garipira*

ubra=ku dja tama ... mintinans ... kisjaŋ ga-ripira
 work=1SG.GEN DIS.ADV many PAUSE maintenance PAUSE sometimes RL.AV-repair
ta baðaj ... ga-pamandaj tapus daw ʔuða man duma na ʔubra
 ta=baðaj ... ga-pamandaj tapus=daw=ʔuða=man duma=na ubra
 OBL=house PAUSE RL.AV-carpenter and=when=NEG.EXIS=also other=LIG work
gagaskatara.
 ga-gaskatara
 RL.AV-grasscutter
 ‘そこでの仕事はたくさんあって、メンテナンスや、時々建物を直したり、大工仕事をしたり、そして他の仕事がなければ草刈りをする。’

(4) *junnan ʔubra ku ʔan ʔuspital.*

junnan ubra=ku an=ʔuspital
 DIS.FRONT work=1SG.GEN LOC=hospital
 ‘それが私の病院での仕事だ。’

(5) *minsangalimpiw ʔa.*

minsangalimpiw=ʔa
 sometimes RL.AV-clean=1SG.ABS
 ‘時々、掃除をする。’

- (6) *jun ʔubra ku ʔadlawʔadlaw naʔan ʔuspital.*
 jun ubra=ku adlaw~adlaw naʔan=uspital
 DIS.FRONT work=1SG.GEN day~day LOC=hospital
 ‘それが病院での私の毎日の仕事だ.’
- (7) *daw səlləm gid ... bagʔu kaj miliŋ naʔan ʔubra naj*
 daw=səlləm=gid ... bagʔu=kaj m-iliŋ naʔan=ubra=naj
 when=morning=indeed PAUSE before=1PL.EX.ABS IRR.AV-go LOC=work=1PL.EX.GEN
 ... *maj dibusjun kaj ʔisja ʔuras.*
 ... maj=dibusjun=kaj isja uras
 PAUSE EXIS=devotion=1PL.EX.ABS one hour
 ‘朝，私たちが仕事に行く前，一時間お祈りをする.’
- (8) *tapus dibusjun junən munta kaj ta ʔubra naj.*
 tapus=dibusjun junən m-punta=kaj ta=ubra=naj
 after=devotion PAUSE then IRR.AV-go=1PL.EX.ABS OBL=work=1PL.EX.GEN
 ‘お祈りの後，私たちは仕事に行く.’
- (9) *ʔasta ʔalasdusi tapus malik kaj migma.*
 ʔasta=alas-dusi tapus=m-balik=kaj m-igma
 until=at-twelve then=IRR.AV-go.back=1PL.EX.ABS IRR.AV-lunch
 ‘12時まで働き，そして帰ってランチをとる.’
- (10) *bagʔu magʔalaʔuna malik kaj.*
 bagʔu=mag-ala-una m-balik=kaj
 before=IRR.AV-at-one IRR.AV-go.back=1PL.EX.ABS
 ‘1時になる前に，（また職場に）戻る.’
- (11) *ʔalaskwatru muliʔ kaj manən*
 alas-kwatru m-uliʔ=kaj=man=ən
 at-four IRR.AV-go.home=1PL.EX.ABS=also=already PAUSE
malik kaj ʔən.
 m-balik=kaj=ən
 IRR.AV-go.back=1PL.EX.ABS=already
 ‘4時に再び家に帰る.’

(12) *junnan ʔubra ku ʔan ʔuspital.*

junnan ubra=ku an=uspital
DIS.FRONT work=1SG.GEN LOC=hospital
‘それが病院での私の仕事だ.’

(13) *tapus ʔubra muliʔ kaj ta baʔaji*

tapus=ubra m-uliʔ=kaj ta=baʔaj=i
after=work PAUSE IRR.AV-go.home=1PL.EX.ABS OBL=house=DEF.PROX
*ʔubra man gjapun.*⁵
ubra=man gjapun
work=also still
‘仕事のあと私たちは自分の家に帰って、まだ仕事がある.’

(14) *garipira ta baʔaji tak nagbaʔ ta bagju.*

ga-ripira ta=baʔaj=i tak=na-gbaʔ ta=bagju
RL.AV-repair OBL=house=DEF.PROX because=RL.STAT-destroy ERG=typhoon
‘台風が壊してしまったので、自分の家を修理している.’

(15) *jakənən⁶ gaʔamatʔamat⁷ ʔubra ta baʔaji*

jakən=ən ga-amatʔamat ubra ta=baʔaj=i
1SG.FRONT=just RL.AV-do.gradually work OBL=house=DEF.PROX
tak ʔuʔa kaj man kwarta na pampaajus.
tak=uʔa=kaj=man kwarta=na paŋ-pa-ajus.
because=NEG.EXIS=1PL.EX.ABS=also money=LIG INST-CAUS-make.good
‘修理してもらうためのお金がないので私が自分で少しずつ家の修理をしている.’

⁵ 指示詞由来の前接語 (i.e. =i, =an, =ja) はホストと共に再音節化される。ホストが子音終わりならば、ホストの最終子音を頭子音に取って音節を形成する。=ja に関しては、ホストが子音終わりの場合はその子音を口蓋化させ、調音的には一つの分節音として産出されることが多い。

⁶ ここでは *jakən* と =ən が再音節化され、声門閉鎖音の挿入は生じていない。一方、上の例 (11) では、=ən は =kaj と共には再音節化されず、声門閉鎖音が語頭に挿入されている。=ən が先行するホストと共に再音節化されるか否かにはこの様に揺れが見られ、§3.2 の話者も同様である。別の接語が =ən に先行する場合に声門閉鎖音の挿入が生じる傾向があるという印象であるが、更なる検証が必要である。

⁷ *amatʔamat* ‘do gradually’ に関して、*amat* が語彙素として存在するか不明であるため、重複の形態プロセスを経ていない本来的重複 (inherent reduplication) と見做し、分割せずに提示している。

- (16) *gani jakən naŋ gid gaubra ... sweldu ku*

gani=jakən=naŋ=gid ga-ubra ... sweldu=ku
 because=1SG.FRONT=just=really RL.AV-work PAUSE salary=1SG.GEN
kuðəŋ gid.
 kuðəŋ=gid
 inadequate=really
 ‘働いているのは私だけで、私の給料では全然足りない.’

- (17) *tama naŋ ta pagkaʔan naj.*

tama=naŋ ta=pagkaʔan=naj
 many=just OBL=food=1PL.EX.GEN
 ‘食べ物にほとんど消えていってしまう.’

- (18) *gapaŋamuju ʔa naŋ daw maj ʔittaw na magtabaŋ kikami.*⁸

ga-paŋamuju=a=naŋ daw=maj=ittaw=na mag-tabaŋ kikami
 RL.AV-pray=1SG.ABS=just if=EXIS=person=LIG IRR.AV-help 1EX.PL.OBL
 ‘誰か私たちを助けてくれないか私は祈っている.’

- (19) *maskiən paŋ-diŋdiŋ naj ba ...*

maski=ən paŋ-diŋdiŋ=naj=ba ...
 even=already INST-wall=1EX.PL.GEN=more PAUSE
tak sʝot ʔa gid ta sweldu ku.
 tak=sʝot=a=gid ta=sweldu=ku
 because=short=1SG.ABS=really OBL=salary=1SG.GEN
 ‘壁のためのお金もまだ必要で、私の給料では全然足りない.’

- (20) *jun naŋ ... lipuʔ naŋ.*

jun=naŋ ... lipuʔ=naŋ
 DIS.FRONT=just PAUSE short=just
 ‘話はそんな感じ、短いね.’

⁸ *daw* は条件を表す従位接続詞、疑問の補文を導入する標識、等位接続詞の機能を持つ。機能によって異なる語釈を用いており、それぞれ ‘when’, ‘if’, ‘and’ を割り当てている。

3.2 簡単な自分史

この談話は、同じくロハス市に住む 70 歳の男性が語ってくれたものである。この話は男性の若い頃から、現在に至るまでを簡単に振り返ったものである。

(1) *kwentu ku ki kjo ta ?akə na nagi?an na bata ?a pa*

kwentu=ku ki=kjo ta=akə=na nagi?an=na bata=a=pa
 story=1SG.GEN OBL=Kyo GEN=1SG.POSS=LIG experience=LIG young=1SG.ABS=yet
 ‘Kyo への私の話は私がまだ若い頃の経験（の話）.’

(2) *jakəni nabata ?a pa ...*

jakən=i na-bata=a=pa ...
 1SG.FRONT=DEF.PROX RL.STAT-young=1SG.ABS=yet PAUSE
maj maŋa bisju ?a.
 maj=maŋa=bisju=a
 EXIS=PL=bad.habit=1SG.ABS
 ‘私はまだ若くて、色々悪い習慣を持っていた.’

(3) *ginəm ?a gasigarilju.*

ga-inəm=a ga-sigarilju
 RL.AV-drink=1SG.ABS RL.AV-smoke
 ‘私は酒を飲み、タバコを吸っていた.’

(4) *siguru ?u ... naisipan ku ?ən na*

siguru=u ... na-isip-an=ku=ən=na
 perhaps=CFP PAUSE RL.STAT-think-LV=1SG.ERG==already=LIG
maŋa la?iŋ na bisju.
 maŋa=la?iŋ=na bisju
 PL=bad=LIG bad.habit
 ‘多分だけど、私はそれらが悪習だと考えていた.’

(5) *gidad ʔa ta maŋa disjutju ʔanjus*

ga-idad=a ta=maŋa=disjutju anjus

RL.AV-become.certain.age=1SG.ABS OBL=PL=eighteen years

kamaŋ kuən maŋa bisju.

kamaŋ=ku=ən maŋa=bisju

take=1SG.ERG=already PL=bad.habit

‘18歳くらいのとき、そうした習慣をやめた.’

(6) *ʔuḡa ... ʔuḡa gid man maparuruʔunan.*

uḡa ... uḡa=gid=man maparuruʔunan

NEG.EXIS PAUSE NEG.EXIS=really=also destination

‘(それらの悪臭は) 何にもならないから (lit. 辿り着けるところがないから).’

(6) *jakəni galiŋkud ʔa ta maŋa ʔilintan*

jakən=i ga-liŋkud=a ta=maŋa=ilintan

1SG.FRONT=DEF.PROX RL.AV-serve=1SG.ABS OBL=PL=lord

naʔan simbaʔan njan.

naʔan=simbaʔan=njan

LOC=church=MED.GEN

‘私は教会で神に仕えた.’

(7) *kasi jakəni katuliku ʔa*

kasi=jakən=i katuliku=a

because=1SG.FRONT=DEF.PROX catholic=1SG.ABS

galiŋkud ʔa gasimba.

ga-liŋkud=a ga-simba.

RL.AV-serve=1SG.ABS RL.AV-go.church

‘私はカトリックだから、教会に行っていた.’

(8) *ʔanu maŋa tudḡu ta ginikanan naj.*

anu maŋa=tudḡu ta=ginikanan=naj

what PL=help OBL=parents=1PL.EX.GEN

‘両親に対する手伝いは何だったか.’

(9) *magsunud kaj daw mubra kaj.*⁹

mag-sunud=kaj daw=m-ubra=kaj
 IRR.AV-follow=1PL.EX.ABS and=IRR.AV-work=1PL.EX.ABS
 ‘私たちは（両親に）従いそして働いた.’

(10) *lunes tægka bjernes ?iskwila sabadu dumingu ?unti kaj*

lunes tægka=bjernes iskwila sabadu dumingu unti=kaj
 Monday until=Friday school PAUSE Saturday Sunday PROX.ADV=1PL.EX.ABS
ta basakani.
 ta=basakan=i.
 OBL=rice.field=DEF.PROX
 ‘月曜から金曜まで学校で、土日は田んぼにいた.’

(11) *mahi:rap kami nu?uŋ ?a:raw pe:ro sa tjaga?*

ma-hi:rap=kami nu?uŋ=?a:raw pe:ro sa=tjaga?
 ADJ-hard=1PL.EX.NOM back.when=day but LOC=patient
*nuŋ na:naj ?at ta:taj na:min.*¹⁰
 nuŋ=na:naj at ta:taj=na:min
 gen.dis=mother and father=1PL.EX.GEN
 ‘その当時、私たち家族は貧しかったけれど、母と父はとても辛抱強かった.’

(12) *?anduni kami ?əman ba?əs di.*

anduni=kami=əman ba?əs di
 now=1PL.EX.FRONT=CONT give.back PROX.ADV
 ‘今度は自分たちが（家のことを）引き継ぐ.’

(13) *maj pamilja ?a.*

maj=pamilja=a
 EXIS=family=1SG.ABS
 ‘私は家族を持った.’

⁹ 主語が複数形になっている。筆者らは話者に加えて兄弟・姉妹を含んでいると想定していたが、落合氏は家族などを話題にする場合に義務的に複数主語を用いる可能性を指摘した。

¹⁰ この一文はタガログ語にスイッチしている。

- (14) *tapus gaubra ?a dusi ?anjus sirbisju ta sikjuriti gad.*
 tapus=ga-ubra=a dusi anjus sirbisju ta=sikjuriti gad
 then=RL.AV-work=1SG.ABS twelve years service OBL=security gard
 ‘そして、12年警備員の仕事をした.’
- (15) *tapus galiŋ ?a.*¹¹
 tapus=galiŋ=a
 then=RL.AV.leave=1SG.ABS
 ‘そしてその仕事を辞めた.’
- (16) *galaktəd ?a ta munisipju disinjubi na taun*
 ga-laktəd=a ta=munisipju disinjubi=na taun.
 RL.AV-move=1SG.ABS OBL=municipality nineteen=LIG year
 ‘市の仕事に移り、そこで19年間働いた.’
- (17) *?ubra ku ta munisipju.*
 ubra=ku ta=munisipju
 work=1SG.GEN OBL=town
 ‘私は市で働いた.’
- (18) *?uḏa man gjapun.*
 ?uḏa=man=gjapun
 NEG.EXIS=also=still
 ‘(仕事は) 今はない.’
- (19) *junman gjapun kaka?an kamaŋ tallu bisis magapun.*
 junman=gjapun ka-ka?an kamaŋ tallu bisis magapun
 DIS.FRONT=still IRR.STAT.AV-eat get three time whole.day
 ‘依然として日に3度食事を取れる.’

¹¹ 動詞 *galiŋ* の語根は不明であるため、分割せずに提示している。

- (20) *duni naisipan ku man ʔambað ku malik ʔa*

duni na-isip-an=ku=man ambað=ku m-balik=a
 now RL.STAT-think-LV=1SG.ERG=also story=1SG.GEN IRR.AV-go.back=1SG.ABS
ta kwa kui ... luti.
 ta=kwa=ku=i ... luti
 OBL=whatchamacallit=1SG.GEN=DEF.PROX PAUSE land
 ‘今度は、土地の話に戻ろうと思う。’

- (21) *naʔan ʔa di gatindəg ta baðaj ku.*

naʔan=a di ga-tindəg ta=baðaj=ku
 place=1SG.ABS PROX.ADV RL.AV-build OBL=house=1SG.GEN
 ‘ここに私は家を建てた。’

- (22) *nagkaruʔun ʔa babuj.*¹²

nagkaruʔun=a babuj
 RL.AV.possess=1SG.ABS pig
 ‘私は豚を飼っている。’

- (23) *maŋa bata ku nakatapus tallu nakatapus bata ku.*

maŋa=bata=ku naka-tapus tallu naka-tapus bata=ku
 PL=child=1SG.GEN RL.STAT.AV-finish three RL.STAT.AV-finish child=1SG.GEN
 ‘私の3人の子供たちはもう学校を卒業した。’

- (24) *majstra ... business ... bagʔu subʔukja*

majstra ... business ... bagʔu=subʔuk=ja
 teacher PAUSE business PAUSE just=one=DEF.DIS
darwa taun na kursu na kamaŋ din.
 darwa taun=na kursu=na kamaŋ=din
 two year=LIG course=LIG take=3SG.ERG
 ‘一人は教師，もう一人は商売をしていて，そしてもう一人は2年のコースを終
 えたところ。’

¹² 動詞 *nagkaruʔun* はタガログ語からの借用である。

- (25) *ʔasta ʔanduniʔi junmanən tjagaʔ kaj naŋ.*
 asta=anduni=i junman=ən tjagaʔ=kaj=naŋ
 until=now=DEF.PROX DIS.FRONT=already patient=1PL.EX.ABS=just
 ‘今まで私たちは辛抱強くしていた.’
- (26) *maski maj ʔubra man bataʔan ku ... gubra kaj man.*
 maski=maj=ubra=man bataʔan=ku ... ga-ubra=kaj=man
 even=EXIS=work=also children=1SG.ABS PAUSE RL.AV-work=1PL.EX.ABS=also
 ‘子供たちは仕事をしていたけれど、私たちはその後もまだ働いた.’
- (27) *maski manakəm gasalig kaj.*
 maski=manakəm ga-salig=kaj
 even=old RL.AV-want=1PL.EX.ABS
 ‘歳をとっていたけれど（働くことを）私たちは望んだ.’
- (28) *maŋa kabataʔan diliʔ.*
 maŋa=kabataʔan diliʔ
 PL=children NEG
 ‘子供たちは（それを）望まなかったけれど.’
- (29) *gubra kaj magasawa.*
 ga-ubra=kaj magasawa.
 RL.AV-work=1PL.EX.ABS couple
 ‘私たち夫婦は働いた.’
- (30) *galaga ta maŋa ʔajəp.*
 ga-alaga ta=maŋa=ajəp.
 RL.AV-take.care OBL=PL=animal
 ‘動物の世話をする.’
- (31) *ʔasta ʔanduni junman.*
 asta=anduni junman
 until=today DIS.FRONT
 ‘今日までその様な感じ.’

(32) *kakaʔan kamaŋ tallu bisis ... ʔokej manən.*

ka-kaʔan kamaŋ tallu bisis ... okej=man=ən
 IRR.STAT.AV-eat get three time PAUSE ok=also=already
 ‘(日に) 3度食事ができる, それで OK だ.’

(33) *jan naŋ kwentu ku ki kjo.*

jan=naŋ kwentu=ku ki=kjo.
 MED.FRONT=just story=1SG.GEN OBL.P=Kyo
 ‘Kyo への私の話はこれで終わり.’

略号一覧

ABS = absolutive, ADJ = adjective, ADV = adverb, AV = actor voice, CFP = clause-final particle, CONT = contrastive, DEF = definite, DIS = distal, EX = exclusive, EXIS = existential, FRONT = fronted form, GEN = genitive, IRR = irrealis, LIG = ligature, LOC = locative, LV = locative voice, MED = medial, NEG = negation, NOM = nominative, OBL = oblique, PL = plural, POSS = possessor, PROX = proximal, PV = patient voice, RL = realis, SG = singular, STAT = stative, 1 = first person, 3 = third person

参考文献

- Eberhard, David M., Gary F. Simons, and Charles D. Fennig (eds.). 2022. *Ethnologue: Languages of the World*. Twenty-fifth edition. Dallas, Texas: SIL International. Online version: <http://www.ethnologue.com>.
- Harmon, Carol. W. 1977. Kagayanen and the Manobo subgroup of Philippine languages. Honolulu: University of Hawai‘i at Mānoa PhD dissertation.
- Huggins, Jacqueline, Louise A. MacGregor, Scott W. MacGregor, and Carol Jean Pebley. 1989. *Mga pangadlaw-adlaw na ambalen* [Everyday conversation], Manila: Summer Institute of Linguistics.
- MacGregor, Louise A., and Carol Jean Pebley. 1999. Two Kagayanen texts. *Studies in Philippine Languages and Cultures* 10. 91–115.
- Mielke, Jeff, Josephine S. Daguman, Hugh J. III Paterson, Kenneth S. Olson, Carol Jean Pebley. 2010. The phonetic status of the (inter)dental approximant. *Journal of the International Phonetic Association* 40(2), 199–215.
- Pebley, Carol Jean. 1999a. Kagayanen enclitic demonstratives ‘i’, ‘an’, and ‘ya’. *Studies in Philippine Languages and Cultures* 10(2), 50–90.

Pebley, Carol Jean. 1999b. A sketch of Kagayanen clause structures. *Studies in Philippine Languages and Cultures* 10(2), 1–20.

Pebley, Carol Jean and Sherri Brainard. 1999. The functions of fronted noun phrases in Kagayanen expository discourse. *Philippine Journal of Linguistics* 30, 75–121.

受理日 2023年 4月 11日